

政策の風『りんどう』

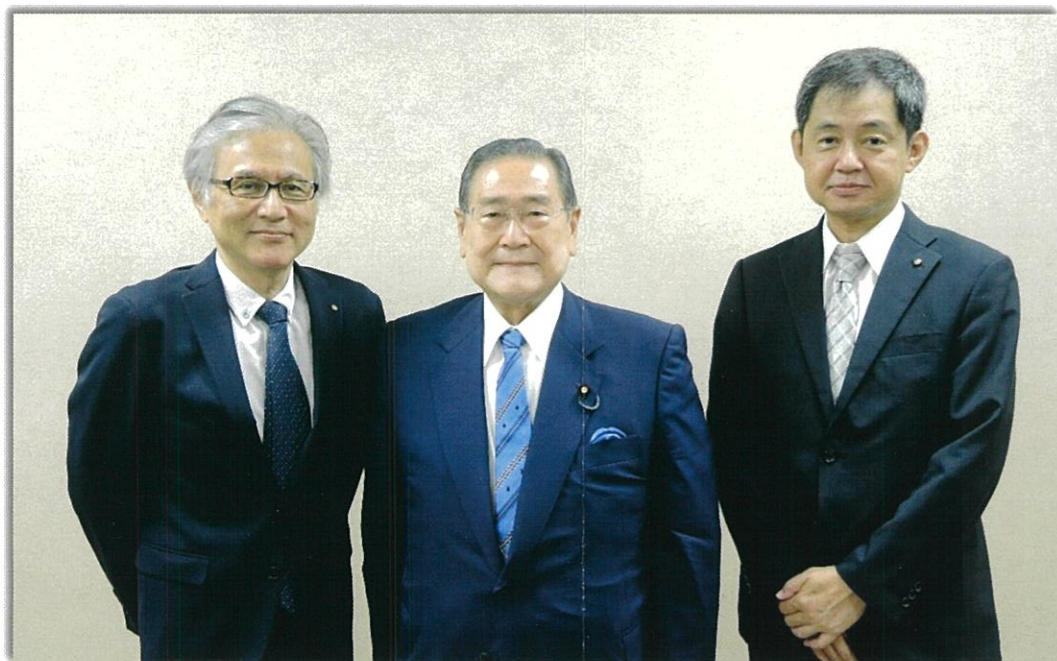
第5号特別号 発行 令和3年7月20日



野田たけし衆議院議員特別対談

「歯科医療における諸問題にも積極的に取り組む」

令和3年7月3日（土）熊本県歯科医師会館にて自民党の現職で最も当選回数が多い16回、議員歴48年の重鎮、野田毅衆議院議員をお迎えし熊本県歯科医師連盟 伊藤明彦会長、牛島隆理事長との特別対談を行いました。今秋には行われる予定の衆議院議員選挙では、17期目を目指す野田議員。新型コロナウイルス感染症対策、社会保障費問題、歯科医療が抱える課題、熊本県の発展などさまざまなテーマについて、お話をいただきました。



伊藤明彦熊本県連盟会長（以下伊藤） 野田先生、本日は、大変お忙しい中、お時間を作っていただきありがとうございます。先生は大変お元気で、毎週、東京と熊本を行き来されていますが、先生の元気の素は何か伺ってよろしいでしょうか？

野田毅衆議院議員（以下野田） 病は気からとありますが、日々色々な事案があり仕事に追われ、多くの人とお会いしていますから気が張っています、毎日が早く過ぎていきます。病気にしている暇はないですね。逆に、休んだりゆったりすると、へこむかもしれません。（笑）

伊藤 先生はお会いするといつもニコニコ気さくに話かけて下さって、私たちもお話がしやすい雰囲気をお持ちでいらしゃいます。

野田 ありがとうございます。いつもご指摘がらんがよかです。大事なものは建前じゃなくて、本音です。役所を通してしようと、フィルターがかかってしまつて、判断を誤ることがありますから、現場の生の声を直接聞くように心がけております。

伊藤 熊本地震や昨年の豪雨災害も、直接現場の声を直に聞かれる。そういった先生の姿勢は常に感じています。特に熊本は、熊本地震、豪雨災害、新型コロナウイルス感染症と三重苦で、皆さん大変な思いをしています。今後、熊本県がもっと元気になっていくような構想はございますか。

野田 私の義父の野田武夫は、当時熊本がどんどん博多に追いこされ、地盤沈下していきついで、選挙区を68歳になって神奈川から生まれ故郷の熊本へ替えて、熊本を九州一の都会にしたいということから始まったんです。昔からナンバースクールの五高も、第6師団も熊本、財務局も含め九州の国の出先機関はほとんど熊本が本局なんです。私が若い頃、当時の竹下大蔵大臣と共に、「民間の経済は福岡、行政は熊本でいい」ということで、随分走り回った経緯があります。地理的にも熊本は九州のへそです。から、阿蘇や空港などの特色を生かしたネットワークづくりを福岡とともに、九州全体を栄え

させるための発想の視点が必要ですね。同時に、熊本県民だけでなく、様々な分野のプレイヤーをどんどん熊本で活動できるように受け皿などをつくる、ということを考えていかないと経済も良くなって行かないと思います。

伊藤 やはり福岡をはじめ、九州全体でつくりあげていくことが必要なのですね。

野田 日本の中で他県をライバル視しては、なかなかうまく行きません。ただ、熊本はファッションなどは結構先端をいっているものが多いんですよ。今はコロナで苦しんでいるけれども、若い人たちがいるような分野で、農業なども育ちつつありますし、今後も期待しています。

伊藤 ありがとうございます。さて、歯科の事を伺いたいのですが、ご存知のように、熊本県の歯科医院では、新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生は無い状況です。今までも感染対策にはしっかり取り組んできていますが、お金をかけてでも、更に気を付けている結果だと思えます。しかし一方で、金バラ問題のように、治療をやればやるほど赤字になるような状態に、歯科医師は本当に疲弊してきています。高騰する社会保障費の問題などもあると思いますが、そういった事へも是非耳を傾けて頂きたいと思えます。

野田 お世辞をいうわけではありませんが、歯医者さんは、危険な場所だと言われ、皆身構えたわけですが、その分、人一倍大変な努力をされて、感染対策をされ、その結果歯科医院でのクラスターが皆無なのは、真に立派だと敬意を表します。スタッフを含め徹底した対策と同時にその分お金もかかっていると思えます。今、感染対策に対する診療報酬も加点など配慮されてきました。金バラの話も、歯科の持ち出しがなくなってきている話も、改定も随時改定を途中でいっているけれども、15%変動がないと改定がないというように、根本策になつていないとも聞かれていますので、全力を挙げて、中医学と正面から取り上げて対応していかねばと思っております。

伊藤 感染対策費も一応9月までとなつていますが、今の感染対策を点数がないからと下げるわけにはいきませんので、どうか継続していただ

くようお願いしたいところなんです。また、今年も「経済財政運営と改革の基本方針2021」、いわゆる骨太方針に5年連続で、歯科の項目が記載され、今回は「生涯を通じた切れ目のない歯科健診」を提唱されています。野田先生も先日、「国民皆歯科健診実現議連」の設立総会に出席頂きました。伊吹文明先生や安倍晋三前総理、尾辻秀久先生が最高顧問になっていらっしゃる、大変我々も期待しているところなんです。国民の健康を歯科健診、予防から行っていくということは今の医療費が増大している事への対応としても、大変重要なことと考えます。先生の歯科健診への考えをお聞かせいただけますか？

野田 仰る通り、医療費が膨らんでいくというのは、ある程度高齢化が進むことに伴うのは、やむを得ない部分もあるのですが、その中で歯科健診を義務化するといい形をつくり、予防の方にシフトしていったらいいですね。医療費を抑える効果があれば理想的ですね。それは、これまでも歯科関係の皆さんの、ご尽力のおかげで、介護の現場でも口腔ケアの有効性が極めて大きいということが強く認識されるようになりました。熊本地震のときには、避難所へ行って口腔ケアを頂きましたが、そうすると被災された方々の顔が全く違うんですよ。体の健康に口の健康がいかに関わっているか。今でもメタボリックシンドローム、生活習慣病の予防などと言っていますが、口の健康がいかに大事か今更ながらみんなが認識しはじめていますね。

伊藤 特に歯周病はさまざまな病気と関わっていますが、自覚症状が出にくい病気なので切れ目のない歯科健診ができる大きくなると思います。

（裏面につづく）



野田 企業進出や河川工事など、何をやるにしても用地の手当てが必要。しかし、誰の持ち物かわからない所有者不明の土地が大変ふえていて、日本全体で、九州の広さほどあるんです。

伊藤 どうぞよろしくお願ひします。先生は、最近、所有者不明土地問題に取り組みられていますね。

野田 先生のお話の通り、歯科衛生士さんと歯科技工士さんの人材確保が大きな課題であることは、私も認識しています。診療報酬請求事務などやっている歯科衛生士さんもいると聞いています。特に大きな病院とは違う歯科医院では、スタッフ不足があると回らないです。診療報酬の問題だけでなく、人材育成やステータスを上げるための方策を考え、力を入れていかねばいけないと思います。しつかりお手伝いしていこうと思ひます。

伊藤 歯周病の予防や治療の担い手として、歯科衛生士は欠かせません。今歯科衛生士の需給問題が喫緊の課題となっていて、歯科衛生士不足に悩まされています。少子化の問題もあるのかもしれませんが、熊本県歯科医師会立の歯科衛生士専門学校も定員割れになってきています。また、ライセンスは持っているても、未就業の歯科衛生士も多く、その対策も必要です。近年は歯科技工士の成り手もかなり減少しています。

あるから痛む」と言われて抜くんです。早くから歯周病の事を知っていたら、僕はもっと人相が良かったかもしれない(笑)



明治時代は家督相続だったので、均分相続になりましたので、大変なことになると思います。そういった所有者不明の土地を、より短期間で効率的に使えるような仕組みをつくり、相続によって取得した土地は3年以内の登記を義務づけた。相続した人を探るのが大変で、ハワイまで判子をもらいに行かないといけません。

野田 先生、最後にこの秋ごろと言われているように、衆議院議員選挙に対する意気込みなどお聞かせいただけますか？

野田 まずは、県歯科医師連盟から推薦

頂き、ありがとうございます。全力を挙げてこの選挙戦を乗り越えて、今日お話し頂いた歯科問題に対しても、当然ながらお応えしていきたいと思っております。何より強く思うことは、熊本の事があります。熊本地震の課題もまだ山積しています。私もチーム熊本の要のひとりとして、やってきました。グループ補助金にせよ、新しい事業を作ってきたが、実は法律改正ではないのです。これは、論理と知恵、そして永年積み重ねてきた人脈とパワー色々組み合わせることで初めてできる。熊本から政治家が育つていって頂いていますが、熊本のために、まだまだ私も全力でやらせて頂きたい。もう一つは国政の問題、特に社会保障の安定財源をどう確保するかというの、長年責任者として、財政再建を次の世代のために、選挙が終わったら、しっかりと取り掛かるつもりです。

伊藤 先生の永年の経験と人脈、すべてにおいて、地震、水害、コロナと本当に助けて頂いてます。今後も、まだまだ先生のお力を頂かなければならないと、県の歯科医療界は思っておりますので、しっかりと応援させていただきます。是非頑張ってください。

野田 ありがとうございます。頑張りま

牛島 本日はありがとうございました。



政治家としての信条は

「背私向公」 「信是義本」

昭和47年、衆議院議員に初当選。当選16回。建設大臣、経済企画庁長官、自治大臣を歴任。

- 税制調査会最高顧問
- 社会保障制度調査会最高顧問
- 中小企業調査会顧問
- 新型コロナウイルス感染症対策本部顧問
- 所有者不明土地等に関する特別委員会委員長



日歯連盟顧問

山田宏参議院議員 デンタルミーティング報告

上益城郡支部

令和3年6月12日(土) 県歯会館にて、日本歯科医師連盟顧問である山田宏参議院議員をお招き(Web)し、デンタルミーティングが開催された。清村龍朗上益城郡歯科医師会会長の挨拶に続き、伊藤明彦県連盟会長より御挨拶をいただいた。

山田氏によると、杉並区長在職時より「歯の健康が体全体の健康につながる」として、様々な施策に取り組み、平成28年参議院議員当選後からは自民党若手議員で構成される「歯科口腔医療勉強会」を立ち上げて、その座長を務めている。この勉強会を通じて歯科保健の重要性および歯科界の問題点について学び、ここで得た知見をもとに口腔の健康の重要性を厚労相、首相らに進言してきた。その結果、平成29年の政府の『骨太の方針』に「口腔の健康」や「歯科保健医療の充実」という文言が初めて記載され、それ以降、骨太の方針における歯科保健医療に関する内容は、年々その掲載割合を増やしていった。それに伴って歯科口腔保健・歯科保健医療の充実・強化関連予算を増加させることに成功したとのことである。

また、今般のコロナ渦において、歯科医院でのクラスター発生事例は全国でもほとんど報告がなく、歯科受診控えは誤った方策であり、むしろ歯科受診を推進し、口腔内の環境を整えることが重要であることを提唱した。さらに歯科診療に必須であるディスプレイマスクやグローブが高騰していることや、院内感染予防に費用が生じている現状を鑑みて、初再診料の5点加点をはじめ、診療報酬の乳幼児加算を算定可能にし、補正予算にて医療提供体制確保支援補助金の支給まで可能な環境を整えた、と話された。

最後に質疑応答が行われ、金パワ問題や歯科衛生士不足の問題、歯科医師国家試験の合格率の問題等様々な質問が出たが、山田氏は幅広く歯科界の問題を把握されており、的確な回答がなされた。これほど歯科界に対して熱心に対峙し、結果を出されている国会議員がおられることにあらためて感謝し、大変心強く感じた。今後も山田宏議員を全体でサポートして皆で一丸となって進んでいけば、暗い暗いと言われた歯科界にも明るい未来が待ち受けていると確信できる、非常に有意義なミーティングであった。(上益城郡支部 太田 宜彦)



県歯連盟では、山田宏参議院議員とのデンタルミーティングを開催していただける郡市支部を募集しております。
詳細は県歯連盟事務局(担当田尻)までお問合せください。